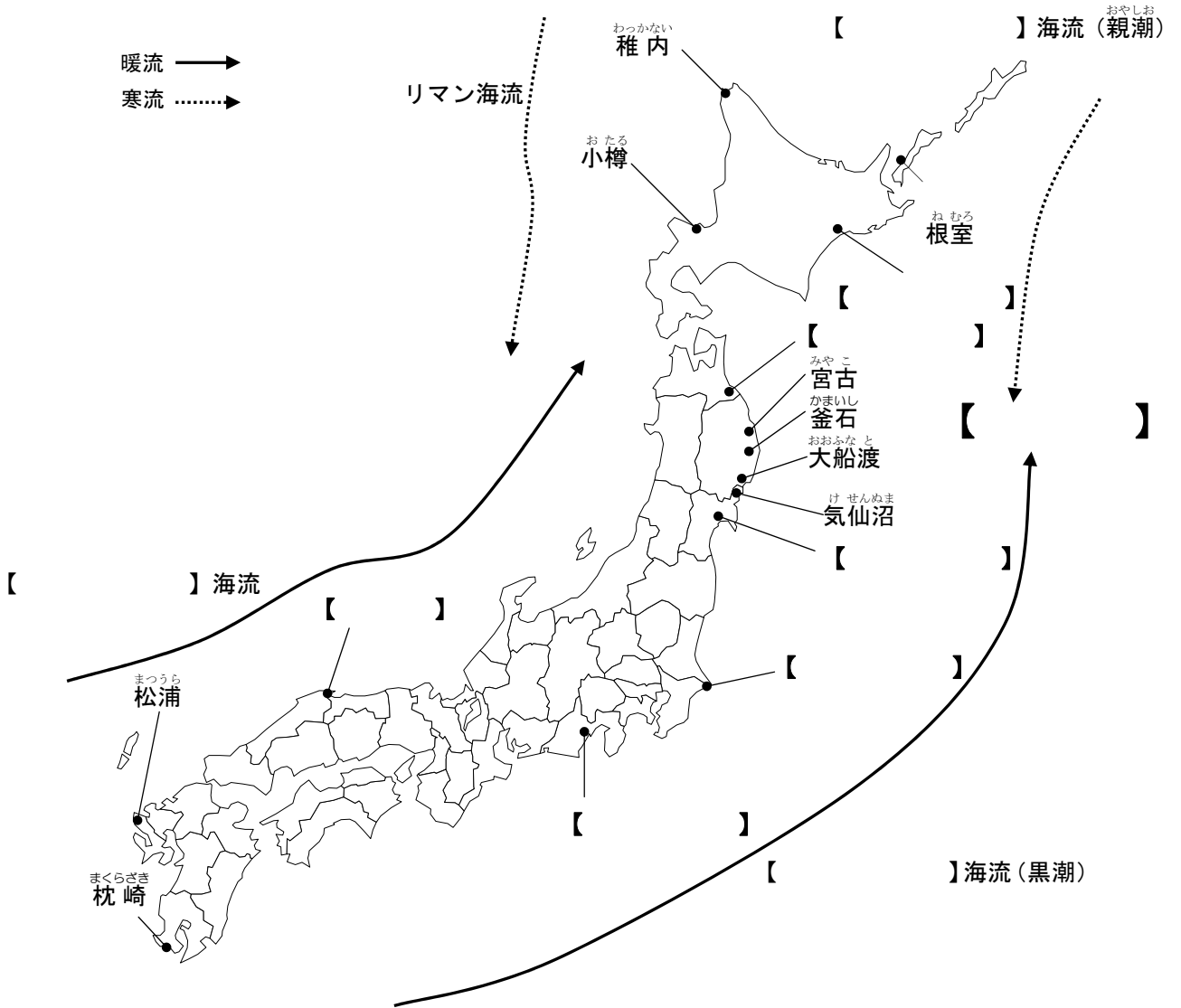


水産業

①おもな漁港とその特徴



三陸海岸沖：青森県（陸奥国）、岩手県（陸中国）、宮城県（陸前国）にまたがる海域。

【 】：三陸沖から千葉県銚子市の沖にかけて、寒流の【 】海流（親潮）と暖流の【 】海流（黒潮）が出あう海域。海流に乗ってさまざまな魚が集まってくる上、エサとなるプランクトンが多く、非常によい漁場である。別名「潮境」ともいう。

【 】：水深の浅い海。日本周辺では東シナ海などに広がっており、よい漁場となっている。

- 【 】港（北海道）：
1991 年まで水揚げ量 1 位だった。北洋漁業の基地。いわしの減少により漁獲量が減っている。
さんま・たら・かに・にしんなどの水揚げ量が多い。
- 【 】港（青森県）：【 】の水揚げ量が多い。
- 【 】港（宮城県）：東日本大震災で被災し、一時水揚げ量が減った。復興が進む。
- 【 】港（千葉県）：利根川の河口に位置しており、さんま・【 】の水揚げ
量が多い。【 】漁業がさかん。
- 【 】港（静岡県）：【 】・かつおの水揚げ量が多い。
【 】漁業の基地である。
- 【 】港（鳥取県）：日本海側では水揚げ量 1 位。

まくらざき
枕崎港（鹿児島県）：かつおの水揚げ量が多い。

①漁業の種類

- 【 】漁業…大型漁船で、数十日～数カ月かけて漁に出る。まぐろ・かつおなど。1970
年代ごろまでは最も漁獲量が多かった。しかし、1973 年に起こった
【 】によって、船の燃料代が急激に上がり、大打撃を受
ける。さらに、各国が【 】を定め、自国の
沿岸から【 】カイリ（約 370 km）以内の水産資源を優先的にと
るようになったため、外国の海で漁をすることが難しくなった。以後、現
在に至るまで漁獲量は減り続けている。
- 【 】漁業…沖合で、数日～1 週間かけて漁をする。いわし・さんま・いかなど。漁業
の中では漁獲量が 1 位。しかし、日本近海ではいわしの漁獲量が減ってお
り、結果としていわしを食べて育つ他の魚も減ってしまっているため、
1990 年をピークに徐々に漁獲量は減り続けている。
- 【 】漁業…海岸近くで小型漁船を用い、日帰りで漁をする。さば・あじ・たいなど。
海の汚染や埋め立てなどにより、やはり漁獲量は減り続けている。
- 【 】業…育てる漁業。のり・かき・真珠・こい・うなぎなど。唯一、漁獲量が減っ
ていない漁業である。海で育てる場合は海面養殖業、川や湖などで育てる
場合は内水面養殖業という。

②育てる漁業

養殖業…稚魚から成魚になるまで、いけすなどの中で水産物を人工的に育てる。

おもな品目

のり：1位 佐賀県…【 】での養殖がさかん。

2位 兵庫県…瀬戸内海は波がおだやかなので養殖に向いている。

ほたてがい：1位 青森県…【 】湾での養殖がさかん。

2位 北海道…汽水湖である【 】湖での養殖がさかん。

※1位、2位はわずかな差。年度によって順位が異なる可能性あり。

かき：1位【 】県 2位 宮城県

しじみ：島根県（【 】湖）・青森県（十三湖） 漁獲量はほぼ同じくらい。

真珠：1位 愛媛県（【 】海） 2位 長崎県（【 】湾）

3位【 】県（【 】半島の英虞湾）

うなぎ：1位【 】県…【 】半島にある志布志湾での養殖がさかん。

2位 愛知県…【 】湾での養殖がさかん。名古屋名物「ひつまぶし」。

静岡県（【 】湖）のうなぎも有名だが、宮崎県に次いで4位である。

きんぎょ：1位【 】県…【 】市での養殖がさかん。

【 】漁業…人工的に育てた稚魚を放流し、自然の中で育って戻ってきた成魚をとる。

（例）サケ、マス、クルマエビなど

・母川国主義^{ほせんこくしゅぎ}…産卵・ふ化のために生まれた川にもどるサケやマスについては、生まれた川のある国に管理する権利があるという考え方。

③漁業の問題点・その他

・【 】…工場などの排水によってプランクトンが異常発生し、海の色が変色する現象。

・乱獲^{らんかく}と規制…世界のまぐろの約4分の1を日本で消費している。さらに、世界的にまぐろの需要が高まっているので、まぐろの数そのものが減少している。そのため、国際的な条約によって、とる量を制限している。また、うなぎも乱獲や環境の悪化によって稚魚の数が激減している。結果として、近年はまぐろやうなぎが大幅に値上がりしている。

・【 】…「海岸近くの森林は魚を引き寄せる」という言い伝えがある。森林を大切にすることが海の環境を守ることにもなると考えられている。

④水産物の輸入

最近は食生活の変化により「魚離れ」が起こっており、年々消費量は減ってきている。

とはいえ、日本人の魚の消費量はまだ世界一であり、国内でとれる分だけではまかないきれないため、1年間で約1兆5000億円もの水産物を輸入している。

世界の漁獲量

1位 中国・2位 インドネシア・3位 アメリカ

※日本はかつて1位であったが、現在は7位。

おもな水産物の輸入相手国

えび：1位 【 】・2位 インド・3位 インドネシア

まぐろ：1位 台湾

さけ・ます：1位 チリ

東南アジアでは日本へ輸出するえびの養殖のため、【 】林を伐採して養殖場を作る場合が多い。マングローブはふつうの森林に比べて、二酸化炭素の吸収率が高く、過度の伐採は地球温暖化や環境破壊につながる。

資源

(1) エネルギー資源

①化石燃料…石油・石炭・天然ガス

(+) エネルギー効率が良い

(-) 燃焼時に大量の温室効果ガスである二酸化炭素を放出、大気汚染を引き起こす

②【 】エネルギー…地熱、風力、太陽熱、水力、バイオマスなど

(+) 温室効果ガスである二酸化炭素をほとんど出さず環境にやさしい

(-) 生産コストがかかる、天候に左右される

(2) 戦後の資源の3つのキーワード

①【 】(1960年代) …エネルギーの中心が石炭から石油へ

②【 】(1973年、1979年)

(原因) 1973年…第四次中東戦争 (イスラエルVSアラブ諸国)

1979年…イラン革命 (革命の混乱でイランで原油の生産が中断)

③東日本大震災 (2011年3月11日)

…福島第一原子力発電所の事故→原子力発電の割合が大幅に低下

(3) 日本の石炭・石油・天然ガスのおもな輸入先

①石炭…1位【 】 2位【 】 3位 ロシア

→国内では、釧路炭田でわずかに生産 世界最大の石炭産出国…中国

②石油…1位【 】 2位 アラブ首長国連邦 3位 カタール

※多くを【 】地域から輸入 タンカーで日本へ輸送

石油備蓄基地…鹿児島市【 】(鹿児島県)が有名

③天然ガス…1位【 】 2位 マレーシア 3位 カタール

→石油と比べてはば広い地域から輸入、火力発電では最も多く使用されている

日本へ運ぶ際には、 -162°C まで冷やした【 】(液化天然ガス)で運ぶ

(4) シェールガス、シェールオイル…地中の岩盤にふくまれる天然ガスや石油の一種

アメリカやカナダで開発が進む

(5) メタンハイドレート…「燃える氷」と表現されることが多く、メタンと水が混じった氷状

で海底に存在する。日本では南海トラフ (四国の南の海底にある水深4000m級の深い溝)などに多く埋蔵

(6) 鉱物資源

①金…【 】金山 (新潟県)、土肥金山 (静岡県)

②銀…【 】銀山 (島根県) 世界文化遺産に登録、生野銀山 (兵庫県)

③銅…【 】銅山 (栃木県) →【 】川流域で

【 】事件が起こる

(7) レアアース (希土類)・レアメタル (希少金属) …素材の性質を高めるもの

南鳥島付近の海底にも